

認め合う心情を育てる道徳指導の工夫

友達のよさに目を向けた活動を通して

群 教 ゼ	G10 - 01
	平16.220集

特別研修員 伊勢川 みち子 (榛名町立第七小学校)

《研究の概要》

本研究は、道徳の時間を友達のよさを見つける活動と関連させて、認め合う心情を育てる道徳指導の工夫について研究したものである。まず、友達のよさに気づき、「よいところ見つけカード」を書くことで友達のよいところを見つける活動を行った。さらにカードを基に「友だち広がりマップ」を作成し、普段関わりの少ない友達のよさを認め合う大切さを考え、友達との関わりを振り返ったり今後の関わり方を考えたりという実践を行った。

【キーワード：道徳 小学校4年 信頼・友情 友達のよさ 「見つけカード」
「友だち広がりマップ」】

主題設定の理由

小学校中学年の児童は、「ギャングエイジ」と呼ばれ、気の合う友達同士で自分たちの世界をつくり仲間づくりをするようになる。また、低学年としての「仲よし」から高学年の「友情」「男女の協力」へと深めていく過渡期でもあるが、性格や考え方などが似ている者で閉鎖的な集団をつくりがちである。自分と他者（友達）との関わり方で考えると、他人の立場を認めることができるようになってくるとともに、自分の在り方についても振り返って考えることができるようになってくる。しかし、好みや興味関心が狭いため、遊びでも好みが同じ者同士が友達になりやすく、その時の好みによって左右され不安定である。そんな児童にとって、友達とは、自分に対して楽しく働きかけ喜びを与えてくれる存在で、友達のよさは自分に直接的に関わるものとしてとらえがちである。

これらの実態は、まだ生活経験の少ない児童のもつ友達像は狭く浅く表面的で、自分の周りにはいる小集団の友達にしか目を向けることがなく視野が外へ広がっていかないこと、また、児童が友達のよさを自分にとって直接的に関わるものとしてとらえており、深く友達の内面を見る経験がないことが原因として考えられる。

そこで、進んで周りの友達に目を向け、関わりをもとうとする心を育てることが大切であり、友達同士のよさを認め合うことが必要であると考え。そのためには、相手に自分から働きかけ友達のよさを見つける努力の大切さを感じさせながら、道徳の時間に主人公の生き方に自分の生き方をうつしていく主客投影の活動を通して、友達のよさをとらえさせていきたいと考える。

それによって、広く周りの友達にも目を向けたり、自分と直接的な関わりのみでない友達のよさにも気付いたりして、認め合うことのできる心情を育てたいと考え本主題を設定した。

研究のねらい

道徳「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」〔2 - (3)〕において、友達のよさを見つける活動と関連させ、道徳1（よさに気づく）、道徳2（よさを確かめる）、道徳3（よさを広げ深める）の学習を通して認め合う心情が育つことを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 道徳の時間1 主題名「よさを見つける2 - (3)」資料「ブラジルからの転入生」において、友達はそれぞれよさをもっていることに気付き、<心のノート>を活用して友達のよさについて書き、カードを友達と交換する。それによって、友達のよいところを見つけようという意欲をもつことができるであろう。
- 2 道徳の時間2 学活「運動会に積極的に参加しよう～自分のよさを生かして～」 「運動会の反省」後に、運動会の経験を基にした自作資料、主題名「友達のがんばりを認める2 - (3)」資料名「運動会」を学習する。それによって、それぞれ目標が違う友達の運動会での活躍やそれを達成するための努力を知り、友達のよさを認め合えるであろう。
- 3 道徳の時間3 主題名「認め合い2 - (3)」資料「貝がら」において、互いに立場や個性が違う今まで関わりをもたなかった友達のよさに目を向け、認め合うことの大切さを考えさせる。さらに「友だち広がりマップ」で友達との関わり方を振り返りこれからの友達との関わり方を考えさせ、友達との関わり方の広がりや深まりに気付かせる。これらによって友達のよさに気付き、認め合う心情が育っていくであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 友達のよさに気付き、認め合う心情を育てることについて

友達のよさに気付き、認め合う心情が育っている児童の姿を次ぎのように捉えている。

ア 友達はそれぞれよさをもっていることに気付き、友達のよいところを見つけようという気持ちをもつことができる。

イ 自分に直接的に関わることのみが友達のよさではなく、自分に厳しかったりまじめに努力したりしている面もよさであると気付くことができる。

ウ 今まで関わりをもたなかった友達のよさにも目を向け、個性や立場が違って、友達のよさを認め合おうとする。

上記のような児童を育てるには、毎日一緒に過ごしている学級の友達の今まで気付かなかったよさに気付かせ、固定されがちな友人関係の改善を図る心情を育てたいと考えた。そのために「友だちのよいところ見つけカード」や「友だち広がりマップ」等、友達のよさ見つけをしていくことを中心にして、道徳で、今まで関わらず気付かなかった友達のよさに目を向け認め合うことが大切であるという授業を展開したいと考えた。

(2) 友達のよさについて

ア 児童の多くが捉えている「親切・やさしい」「一緒に遊んでくれる・仲間はずれをしない」「励ましたり心配したりしてくれる」という自分に直接的に関わること。

イ 教師が気付かせたい「まじめに努力」したり、「誠実」であったり等、間接的であるが影響力のあることや、「はっきりと注意をしてくれる」など自分に厳しくしてくれること。

(3) 友達のよさに目を向けさせるための手だて

ア 心のノートの活用

心のノートのP 44「信じ合い、助け合う友だち」で、国語や音楽の教科書や図書室の本などで、信じ合ったり助け合ったりする友達の様子が書かれている話や歌を探す活動を行う。それをきっかけにして、友達に関する話を進んで読むよう支援したり、朝の読書の時間に読

み聞かせを行ったりする。

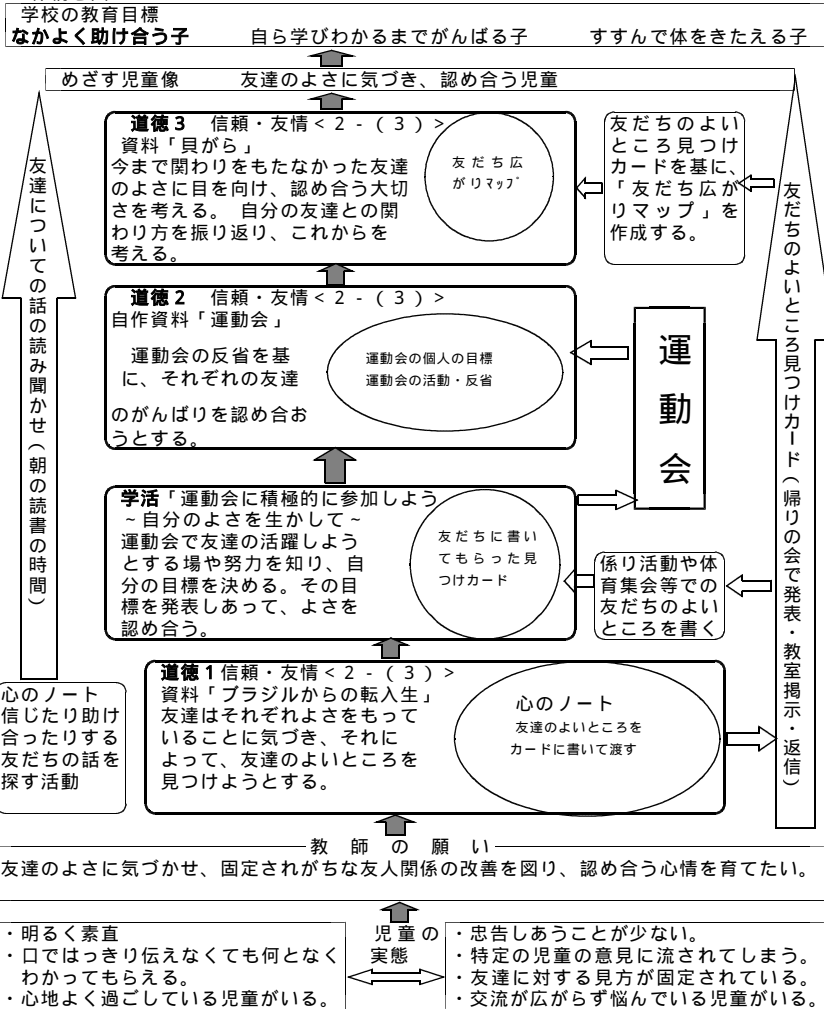
道徳の授業の中で友達はそれぞれよさをもっていることに気付かせ、まとめの段階で、実際に友達にカードを書いて渡す活動（心のノート P 45「友だちのよいところを見つけよう」）を行う。それをきっかけにして、「友だちのよいところ見つけカード」を書いて、帰りの会で発表したり教室に掲示したりすることを常時活動とする。

イ 「友だちのよいところ見つけカード」を、ただ発表させるのみでなく、それを見つけてくれた普段関わりの少ない友達に返信できるよう教師が意図的に支援する。

ウ 運動会の事前に立てさせた個人の目標や運動会の経験・事後の反省を基にした自作資料を作り、それを使って友達のがんばりを認め合うようにする。

エ 「友だちのよいところ見つけカード」を基に、友達との関わりの広がりや深まりがわかるように「友だち広がりマップ」を作成する。それを使って、友達との関わり方を考えさせ道徳3のまとめをする。

全体構想図



2 研究の概要及び結果と考察

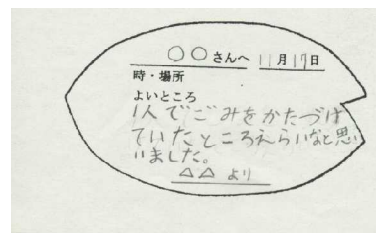
本研究では、児童の変容を観察によって検証している。児童の授業中の発言や授業後のワークシートの記述、作文の内容等を中心に検証を進めていく。

本学級（小学校4年生 男子14名女子15名 計29名）の児童は、幼稚園から一緒の友達が多く、単学級のためクラス替えの経験がなく、1年生からずっと同じ集団で過ごしている。明るく素直で男女が仲よく友達同士の目立ったけんかも少ないが、固定された集団の中で、小集団ができやすく、自分と仲がよい友達に対しては寛大になり、そうでない友達に対しては厳しい態度をとる傾向が見られる。また、友達に自分の考えを言葉ではっきり伝えなくてもわかってもらえると思いこんでいたり、逆に友達に対する見方が固定してしまったりしている。限られた集団の中で、心地よく過ごせる児童も多いが、交流が広がらずに友達関係で悩みをもっている児童も見られる。

(1) 友達はそれぞれよさをもっていることに気づき、友達のよいところを見つけようという意欲をもつことができたか。(見通し1)

資料1

友だちのよいところ見つけカード



ア 実践の概要

資料「ブラジルからの転入生（転入生はサッカーが上手と期待したが、期待はずれでがっかりした。しかし、明るくて人なつこいよさがあると気付いた）」によって友達はそれぞれよさをもっていることに気づき、心のノートを活用して友達のよさについて書いた。

よさを書いたカードは友達と交換した。それによって、友達のよいところを見つけようという意欲をもった。また、これをきっかけにして、「友だちのよいところ見つけカード」を書いて帰りの会で発表し掲示することを、常時活動にした。さらに、このカードを基にして「友だち広がりマップ」を作成し、友達との関わりが広がっていく様子に気付かせた。

イ 結果と考察

今まで気付かなかった友達のよさについて書かせたところ、いつも親しくしている友達に対して書いた児童が9名、普段あまり関わることのない友達に対して書いた児童が20名であった。その内容としては、以下のようなものである。

児童	友達のよさ	気づいた時の気持ち	書いた友達
A子	いっしょにやろうとか遊ぼうとかいろいろDちゃんが声をかけてくれてうれしい。	やさしいとかありがとうという気持ちになる。	いつも一緒にいる友達以外
C子	ならば順番で、Fちゃんと同時に私がならんだとき、『先にならんでいいよ』と言ってくれた。	とってもやさしいな。	いつも一緒にいる友達

2人とも友達のよさについて見つけようとするのができた。しかし、まだ自分との直接的な関わりで考えていたり、いつも一緒にいる友達に対してであったりする面も見られる。

資料2「友だちのよいところ見つけカード」を教室に掲示したもの



「友だちのよいところ見つけカード」は、帰りの会で発表し、教室掲示をしたが、その授業以後は毎日のように発表され掲示物もいっぱいになった。友達によいところを見つけてもらったA子の感想では「とってもうれしいです。いいことをするといいことが返ってくるみたいでおもしろいなと思いました。でも、少し照れくさいです。」と書かれていた。

また、C子を始め、見つけた時の感想には、「友達のよいところをもっと見つけたい」という内容が多く、友達のよいところを見つけようという気持ちの高まりが感じられる。このことから、道徳1の実践を通して、友達にはそれぞれよいところがあることに気づき、友達のよいところを見つけようとする意欲をもつことができたと考える。

(2) 運動会での友達の活躍やそれを達成するための努力を知ることによって、友達のよさを認め合えることができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

運動会前の学級活動で「運動会へ向けての自分の目標」を立てさせ、その目標を達成する

ために必要なことを考えさせた。その際、友達に見つけてもらった「友だちのよいところ見つけカード」も自分のよさとして参考にさせた。目標は、種目や場を挙げたものはダンス5名、90 M走5名、係の仕事4名、リレー4名、応援2名、綱引き1名、騎馬戦1名、鼓笛パレード1名であった。また、気持ちの面で挙げたものは「力を出し切る」や「最後まであきらめない」「みんなのために」が6名であった。目標は多岐にわたり、発表し合うことでそれぞれのよさを知ることができた。運動会後は「目標の反省」をし、経験を基にした自作資料「運動会（リレー選手で走ることにより自信満々であるが開会式では不まじめな態度であった友達が、リレーでバトンを落としてしまったが最後まで走り終わり泣いていた。その後の閉会式ではまじめな態度で臨んでいて、主人公はその友達を見直す）」を使って、いろいろな場面の友達の姿に目を向ける大切さを考え、運動会での友達のがんばりを認め合った。

イ 結果と考察

運動会での友達のがんばりを書かせたところ、いつも親しくしている友達に対して書いた児童が2名、普段あまり関わることのない友達に対して書いた児童が27名であった。また、いろいろな場面で複数の友達のよさを見つけて書いている児童が15名であった。このことは、道徳1の実践後より、友達に対して広く目を向けようという姿が見られる。内容としては下記の表の通りである。運動会という限られた行事の中でも、多様な場面で友達のよさやがんばりを見つけようという姿が見られた。特にC子は道徳1の実践後も「友だちのよいところ見つけカード」では女子を中心に見つけていることが多かったが、ここでいつも一緒にいる友達以外にも目を向けることができた。

児童	運動会での友達のよさ	書いた友達
A子	・用具係のみんなは、すごいがんばっていて、責任感があってえらいなあと思いました。 ・Hちゃんが、90 M走でとってもがんばっていてすごいなと思いました。 ・Jちゃんが、リレーの時、一生けんめい走った後に一生けんめい応えんしているところが、やさしいなと思いました。	一緒にいる友達以外 一緒にいる友達以外 一緒にいる友達
C子	90 M走でK君が、くつがぬげてしまったけど、ゴールまで走ってえらいと思いました。	一緒にいる友達以外

さらに、運動会についての作文にも友達のよさを認めようという気持ちが表れている。

資料3 運動会についての作文(抜粋)

A子：こうやって運動会をしていると、友だちのいいところに気づきます。人を一生けんめい応えんしていたり係の仕事ががんばっていたり、みんなが一生けんめいになると通じているような気がします。

E子：団席からいすをかたづけた後で、M君が、ゴミを一生けんめい拾っていて、えらいなあと思いました。

このことから、道徳2の実践を通して、友達のよさやがんばりを認め合うことができたと考えられる。

(3) 今まで関わりをもたなかった友達のよさに目を向け、認め合うことの大切さを考え、自分の友達との関わり方を考えることができたか。(見通し3)

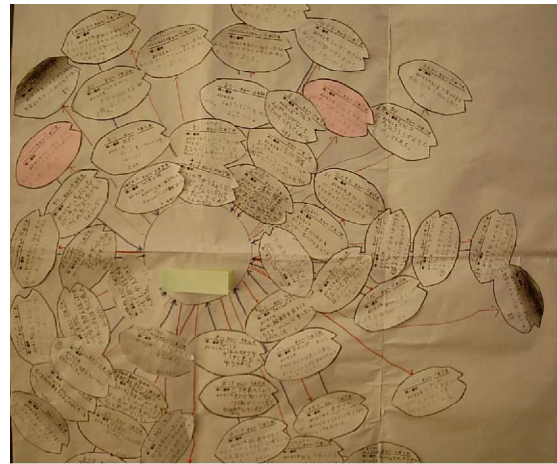
ア 実践の概要

資料「貝がら（隣の席の友達は誰とも話をしつづけない。しかし、図工の時間に生き生きと絵を描いたり以前住んでいた海辺の話をしてくれたりして、違った一面を見ることができた。独特な話し方のせいであまり話さなかったことも知る。主人公が病気で欠席した時、その友達は貝がらを持ってお見舞いに来てくれた。今度こそ、その友達と仲良くなれると思った。）」を使い互いに立場や個性が違う今まで関わりをもたなかった友達と双方向で関わりをもつことによって、よさに目を向け認め合う大切さを考える授業を実施した。そして、まとめる過程では、今まで作ってきた「友だち広がりマップ」を見て自分の友達との関わりやこれからの友達との関わりについて考えさせた。

イ 結果と考察

授業の展開の中で「今まで関わりをもたなかった友達と仲よくなれそうだと思ったのはなぜか」という発問に対してA子は「ぼく(主人公)に大切な宝物をくれたりぼくのために友達がしてくれたりして、ぼくの心の中も友達のことですごくいっぱいになった。」、C子は「貝がらをくれたりお見舞いにきてくれたりしてぼく(主人公)のことを思ってくれたのかなと思ったから」と答えており双方向の大切さを感じている。「友だち広がりマップ」を見て自分の友達との関わりについて考えた内容は、以下のものである。

資料4 A子の「友だち広がりマップ」



考え 児童	「友だち広がりマップ」を作成し始めた時の感想	「友だち広がりマップ」を見て、友達との関わりを考える	これからの自分の友達との関わり方を考える
C子	私もけっこういいところがあるんだな。もっともっといっぱい友だちのいいところはあるんじゃないかな。もっと見つけて書きたいな。	・男子のよいところをあまり見つけていないので、男子のよいところを見つけない。 ・前の友だち広がりマップと比べて、見つけた数が増えていないからもっといっぱい見つけたい。	・もっと友だちによりいいことをしたい。 ・私がしたよいことを見つけカードに書いてもらわなくても、よいことをしたなど友だちに思ってもらいたい。

3人の感想には男女の区別なくあまり一緒に遊んでいない友達に対してもよいところを見つけようという気持ちが表れている。C子は最初の頃「友達のよいところはもっとたくさんありそうなので見つけたい」と友達のよいところを見つけようという意欲を見せている。やがて見つけているうちに自分が見つけているのは女子に対してが多いと気付き男子のよいところを見つけないと思う。さらに自分が友達のよいところを見つけ認められたように、自分も友達に認められたいと思っていることがわかる。A子も「仲がいい友だちとばかりでなく、普段あまり遊ばない友だちのよいところも見つけていきたい」と考えており、これから認め合う心情が育ってきていると考えられる。また、B男の感想から、よいところを見つけるのであっても自分との直接的な関わりのみでなく、内

資料5 B男とA子の友だちとの関わりを考えるワークシート

作成し始めた時の感想	作成し始めた時の感想
まだ自分のいつも遊んでいる友だちだけなので、女子に対してもよいところを見つけないと思います。	私もけっこう書いた(見つけカードを)けれど、友だちもこんなに書いてくれてうれしかったです。もらって書いてなかったところがあったので、その人たちにも書きたいと思います。
↓ (道徳3で考えたこと)	
<p>道徳「貝がら」 4年 氏名 (B男)</p> <p>自分の「友だち広がりマップ」を見てどんなことを感じましたか?</p> <p>少しずつ女の子にもかけているけども、かいていきたいと思いました。</p> <p>↓</p> <p>これからのように友だちとかがわっていきたくありませんか?</p> <p>かんたんなところばかり見つけなくても、むずかしいところも見つけたいです。(たとえばけんがちしていきついでにあげたところ)</p>	<p>道徳「貝がら」 4年 氏名 (A子)</p> <p>自分の「友だち広がりマップ」を見てどんなことを感じましたか?</p> <p>よいこと見つけカードをもらってその人たちに遊ばせたいけれどクラスの全員によいことを見つけたわけではないから、しょくに遊ばない友達にもこれからよいところを見つけていきたいです。</p> <p>↓</p> <p>これからのように友だちとかがわっていきたくありませんか?</p> <p>だれか一人だけと仲よくするのじゃなく、男の子も女の子もかきいなく楽しくおたがいがわかっていきたいと思います。</p>

面をよく見ていこうという気持ちも感じられた。他の児童も「本当のことをズバツと言ってくれる友だちと関わりたい」「やさしく思いやりをもってけんかをしている人を注意したい」と今後の関わり方を考えて書いている。このことから、道徳3の実践を通して、双方向で友達と関わり認め合う大切さについて考えることができ、友達との関わりを広げ深めていこうという心情が育ってきたと考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

自分の周りにいる小集団の友達にしか目を向けられなかった児童が、友達のよさ見つけを通して、広く周りの友達にも目を向けられるようになった。このことから、友達のよさに気付かせる授業後に「友だちのよいところ見つけカード」を継続して書かせることが、友達のよいところを見つけるのに有効であったと考えられる。

友達のよさを自分との直接的な関わりとしかとらえられなかった児童が、友達との関わりを広げようとするとともに、友達のよさを内面からとらえようとすることができた。このことから、今まで気付かなかった友達のよさを認め合う授業後に、「友だちのよいところ見つけカード」を基に作成した「友だち広がりマップ」を使って友達との関わりを考えさせたことが、児童が友達との関わりを広げたり深めたりしていこうという考えをもつのに有効であったと考えられる。

運動会という共通体験を基にした自作資料を使って友達のよいところを見つけることによって、児童は友達に対して新たな発見をしたり、いつも一緒に遊んでいる友達以外に目を向けようとしたりできた。このことから、共通体験の場で友達のよさを確認し合うことで、児童が広く友達に対して目を向けられるようになったと考えられる。

授業実践後の休み時間に、男女問わず声をかけ合って、大人数で長縄やボール遊び、おにごっこ等をする児童の姿が見られるようになった。このことから、カードを書くときに友達のよさを意識するのみでなく、休み時間等に自然に声をかけ合い友達を認め合うことができるようになったと考えられる。

2 今後の課題

よさ見つけを継続し、友達に見つけてもらったカードにも注目することで、「自分のよさ」にも気付くことができたことから、「見つけカード」や「友だち広がりマップ」を使って、第5、6学年の内容項目1-(6)の個性伸長へつなげていきたい。

今後もさらに友達のよさを見つけれられるように、行事や日常生活の中で班作りをするときも、教師の意図的な指導なしで誰とでも班を作って活動できるような雰囲気づくりに努めていきたい。

<参考文献>

- ・押谷 由夫 著 『「よさ」をはぐくむ道徳の時間』 明治図書（1996）
- ・押谷 由夫、立石 喜男 編著 『友情と広い心を育てる』 明治図書（1991）
- ・金井 肇、全国道徳授業実践研究会 編著 『「心のノート」を生かす道徳授業』 明治図書（2003）